

令和7年11月28日

瑞浪市長 水 野 光 二 様

瑞浪市総合計画推進委員会
会長 大 宮 康 一

令和7年度第7次瑞浪市総合計画の推進に関する意見書（案）

令和6年度第7次瑞浪市総合計画実施計画に位置付けられた決算事業について、本委員会において評価し、意見をまとめましたので提出します。

貴職におかれましては、本意見書の趣旨を十分に反映され、第7次瑞浪市総合計画の将来都市像「幸せ実感都市みずなみ～いっしょに創ろう 夢ある未来～」の実現に向け、各種事業が推進されるよう要望します。

1 総評

第7次瑞浪市総合計画に基づき、「新しい地方経済・生活環境創生交付金」を活用して実施された事業を中心に、計画に位置付ける5つのまちづくりの基本方針の推進に向け、下記11事業について評価を実施した。

地域資源を活用した観光振興や地場産業の活性化、若者の参画促進、市民参加型イベントの実施など、地域の魅力と活力を高める取組については、一定の成果が認められた。一方で、児童館の利用促進や公共交通の利用率向上、防犯活動の持続性確保などについては、対象者のニーズに応じたサービスの見直しや効率化、持続可能な体制の構築に課題が見受けられた。また、助成制度の充実や事業の周知方法の工夫といった市民への浸透を図る取組も引き続き重要である。

令和6年度は、第7次瑞浪市総合計画の初年度であることから、今後の発展が期待される段階であると考える。今回の評価を踏まえ、地域の特性を的確に捉えた施策の展開や、市民と行政が一体となった推進体制の強化、そして成果の積極的な発信を通じて、持続可能で活気あるまちづくりの実現に期待する。

2 評価事業及び評価基準

(1) 令和7年度評価事業

No.	まちづくりの基本方針	事業名	担当課
①	1. 人・未来を育むまちづくり	児童館管理運営経費（指定管理）	こども家庭課
②	2. 魅力あふれるまちづくり	地場産品ブラッシュアップ事業	シティプロモーション課
③	2. 魅力あふれるまちづくり	市制70周年記念事業	企画政策課
④	2. 魅力あふれるまちづくり	域学連携推進事業	シティプロモーション課
⑤	2. 魅力あふれるまちづくり	お試し移住体験事業	シティプロモーション課
⑥	3. 生涯活躍のまちづくり	小児インフルエンザ予防接種費用助成事業	健康づくり課
⑦	4. 活気みなぎるまちづくり	農産物等直売所管理経費（指定管理）	農林課
⑧	4. 活気みなぎるまちづくり	観光コンテンツ造成事業	商工観光課
⑨	4. 活気みなぎるまちづくり	東濃圏広域観光PR事業	商工観光課
⑩	5. 持続可能なまちづくり	広域バス路線運行維持補助事業	商工観光課
⑪	5. 持続可能なまちづくり	防犯活動推進経費	危機管理課

(2) 評価基準

①項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりの実施に見える。方法の見直し強く求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

②個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

③委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

3 評価及び個別意見

【事業①】児童館管理運営経費（指定管理）

【委員会総合評価】 B

児童館の利用実績により、一定のニーズがあることを確認した。今後は、中高生の利用促進が課題であり、市と指定管理者が連携し、魅力あるプログラムの構築や地元メディアを活用したPR強化が必要である。児童館は放課後の居場所として重要で、利用者数だけでなく、子どもや家庭にとっての価値を社会に示すことも求められる。少子化や生活様式の変化に対応し、利用率など実態に即した指標への見直しも必要である。

【個別意見】

- ・瑞浪市内での18歳未満（2020年統計）の6,306人のうち、1人あたり約9回利用した実績がある中で、今後の課題として挙げられる中・高校生の利用促進対策について、具体的な方策を検討する必要があると考えられる。
- ・児童館は、放課後等に居場所がない子どもたちにとって必要な施設であると考えられるが、必ずしもすべての子どもが利用する必要はない。市と指定管理者がしっかりと連携し、利用する子どもたちにとって必要とされるプログラムを構築していくことが重要である。児童館に行けばどのような活動ができるのかをしっかりとPRし、児童館の認知度を向上させる方策も必要ではないだろうか。
- ・児童館は、子どもたちの活動の場であるとともに、安心して立ち寄れる居場所でもある。運営上、利用者数や稼働率は非常に重要な目標ではあるが、実績数値に表れない子どもやご家族にとっての価値や意義をしっかりと社会に示していくことも重要である。
- ・激しい少子化の中で、目標値の設定方法を検討する必要があると考えられる。効率性の検討は難しいが、利用者の実数からも他の手段での代替も難しいものと判断する。利用者の増加が見られることから、一定のニーズがあると考えられ、共働き世帯の増加など諸状況から、今後のニーズはさらに高まるものと思われる。少子化対策としても、市民の理解を得やすいものと判断する。
- ・コロナ禍以降、利用者が増えているのは、4か所それぞれの担当者が努力を重ねた成果が表れているのではないかと。今後も、地元ケーブルテレビ局を含めたマスコミを活用し、地元行事を取り上げてもらうよう働きかけを行い、利用者だけでなく市民にも関心を持ってもらうことが重要である。
- ・児童館の必要性は十分に認識しているが、人口減少や生活スタイルの変化により、利用者数の減少傾向は今後も続くと考えられる。したがって、今後は対象人口に対する利用率など、より実態に即した指標への見直しが必要はないか。
- ・以前、主任児童委員をお引き受けした際、各児童館の努力を知り、担当者がよく活動

していることを実感した。特に陶児童館は、良く利用されており評価できる。利用する市民との懇談会などを行い、事業を進めていくことが望ましい。

【事業②】 地場産品ブラッシュアップ事業

【委員会総合評価】 B

本事業は、ふるさと納税額の増加を目的に、市内産業の活性化を手段として実施された。ビームスジャパンの監修による地場産品の開発・ブラッシュアップが進み、寄附金額も増加した。また、参加事業者の経験値向上や瑞浪市の認知度向上にも貢献した。今後は、各事業者が自主的に商品開発に取り組み、成功事例の共有を通じて未参画事業者にも波及することを期待する。シビックプライドの醸成にかかる成果についても、検証されたい。

【個別意見】

- ・結果的には、それなりの成果があったと評価する。ただし、私が本事業の途中から参加した際に、監修を受けた事業者の一部から、株式会社ビームスにメリットはあったかもしれないが、監修を受けた側にメリットを感じなかったという感想もあった。プロポーザル方式で公正に監修する事業者を選定したとのことだが、その基準は適切だったか。事業目的として「市内産業の活性化」とあるが、これはあくまで手段であり、本当の目的は「ふるさと納税額の増加」であると考ええる。
- ・本事業を通じて多くの地場産品の開発やブラッシュアップが進んだこと、ふるさと納税の寄附金が増加したことは評価に値する。今回参画した事業者が新たな商品開発に取り組むきっかけとなることを期待する。今後は民間事業者に頼らなくても、各事業者が自主的に商品開発に取り組むことを期待したい。また、この取組による成功例を紹介し、今回参画しなかった事業者にも広がることを望む。
- ・ビームスジャパンの監修により、地域の特産品が広く知られることで、瑞浪市の認知度向上に貢献した事業であると考ええる。今回の成果が、後継となる取組に活かされることを期待する。また、シビックプライドの醸成に関する成果についても、検証されることを期待する。
- ・瑞浪市は認知度がまだ低いと考えるが、こうした活動を通じて瑞浪市について知る機会が提供されたと思う。
- ・事業目的の「市内産業の活性化並びにシビックプライドの醸成」の度合を図る指標の選定が難しいことは理解できるが、寄附件数を指標とした点には違和感が残る。一方で、事実として目標を大きく上回る成果を残しており、寄附金額も右肩上がり推移しており、投入コストを上回っていることから、概ね効率的に実施され、一定のニーズもあったものと思われる。また、市民の理解も得られるものと判断する。
- ・ビームスジャパンに依頼し、ブラッシュアップを図ることで、投入コストの割にはし

っかりと成果が出たのではないかと考える。ただ、これで終了ということだが、課題にもあるように、単年で結果を出さなければならないという制約があり、スケジュールがタイトになった。そのため、もう少し余裕をもってブラッシュアップできれば、さらに成果が出たのではないかと思うと、もったいない気がする。また、今回の事業においても、著名人等を活用したPRができればより良かったと考える。

- ・寄附金の件数および金額が大幅に増加しており、高く評価できる。また、商品開発においても、参加事業者の経験値向上という効果が見られたと考える。計画通りに終了したが、今後も地場産品を全国市場に売り出すための取組に期待する。
- ・スケジュールがタイトであったようだが、様々な商品開発が行われ、効果があったようで良かったと考える。
- ・地場産品の開発や催事販売など、多くの種類がピックアップされており、素晴らしいと考える。今後は目玉商品を絞り込み、アピールできると良い。タイルは多治見市笠原町が有名であるが、瑞浪市でも違った形で認知されると良い。

【事業③】市制70周年記念事業

【委員会総合評価】A

市制70周年記念事業は、市民の団結と地域活性化に大きく貢献し、高く評価する。瑞浪ボーノパークのPRにも効果的で、今後も継続的な企画が望まれる。若手職員の活躍は人材育成にもつながり、今後の市民参加型プロジェクトへの期待も高まる。ギネス世界記録達成の話題性もあり、市外からの参加も多く、地域の魅力発信につながった。一過性で終わらせず、恒例イベント化や収益化などの工夫を通じ、継続的な地域の活性化を図るべきである。

【個別意見】

- ・周年記念事業のみで「完了」とせず、是非継続的な企画をしてはいかがだろうか。
- ・瑞浪ボーノパークをPRするためには有効なイベントであったと思われる。これが一過性のものとならないように、本イベントで培ったノウハウを活かし、様々なプロジェクトに挑戦してもらい、瑞浪ボーノパークをはじめとした瑞浪市の魅力発信に努めてもらいたいと考える。
- ・市制70周年記念として、市民が集まり団結して地域を盛り上げる事業は、とても有意義であり、素晴らしい取り組みであると高く評価する。また、若手職員の方々が中心となり実施できたことは、今後を担う人材の育成にもつながる事業であったと考える。これからも若手職員のアイデアや企画が市民を巻き込みながら実行されることを期待する。
- ・目標値を大きく上回る実績を残しており、ギネス世界記録認定による盛り上がりを演出した一方で、業務委託による省力化に努め、概ね効率的な実施がなされたと判断す

る。周年記念事業による瑞浪市民としての意識向上や行政との一体感強化等のニーズはあると思われ、継続の必要性もあると考える。一層の市民参加への工夫は必要と思われるが、事業への市民の理解は得やすいものと判断する。

- ・市制70周年記念ということで、目標の2倍以上の参加応募者数であった。しかし、800名のうち691名の参加者であったという点に課題を感じる。理由はなかなかわからないとは思いますが、一割以下の不参加であれば良かったと考える。イベントとしては大成功であったと言えるが、一時的なものにならないようにしてほしい。例えば、瑞浪ボーノポークで作ったホットドッグの賞金付き早食い選手権を恒例化するなど、いかがだろうか。
- ・応募数が大幅に上回っており、高く評価できる。周年記念事業にとどまらず、市民が気軽に参加できるプロジェクトがさらに増えることで、地域のつながりやまちへの愛着形成が一層深まることを期待する。
- ・市外の方の参加が3割ということで、比較的市外の方も多く参加されたことは良かったと考える。
- ・「ギネス世界記録」は大成功であった。令和5年度に周年記念事業を市と共催した暮らしの彩りマーケットも参加しやすい。今後、きなあつ瑞浪での肉販売や試食会を増やし、収益アップを狙うのはどうだろうか。

【事業④】域学連携推進事業

【委員会総合評価】B

高校生や大学生が瑞浪市のまちづくりに参画することは、地域活性化や人材育成において非常に有意義である。特に「ミライ創ろまい課」は若者の柔軟な発想を活かし、世代間交流を促進する独創的な取組として高く評価する。「ミライ創ろまい課」への参画を通じて、若者の市への関心が高まり、将来に亘った継続的な関わりを期待する。事業は概ね効率的に実施されており、今後は成果の発信や支援体制の充実により、参加者や事業者の増加を望む。

【個別意見】

- ・若者の「産学官」参加による課題解決も一つの方法であり、また、若者の柔軟な考え方で発明・発見が一つでもあれば、それを成功として継続されたい。
- ・高校生や大学生が市政やまちづくりに関心を持ち、まちづくりに参画していることは評価できると考える。まちづくり組織の人員が高齢化していく中で、若者がまちづくりに参画してもらえることは大変貴重であると思う。学校を卒業後も、瑞浪市に関心を持ち、継続的にまちづくりに参画してもらえるような方策を模索してもらいたいと考える。
- ・ミライ創ろまい課は、瑞浪市の独創的な取組であり、地域の高校生などが直接市の活

動に関わり、かつ自身のアイデアと企画を実施できる未来を担う人材育成として、また世代間・地域間の交流を活発にする活動として高く評価できる。今後は、ミライ創ろまい課を応援する市民が増え、ミライ創ろまい課を経験した若者が次の世代を支援する立場になるような循環した成果を期待する。

- ・本校の生徒も参加しており、満足度は高いと考える。はじめは瑞浪市にそこまで興味がなくても、これをきっかけに興味を持ち始める生徒が多い。ただし、活動日の設定について、個人として参加する学生も気軽に参加できる環境、雰囲気作りが必要と考える。
- ・概ね目標は達成しており、連携事業数に対しての投入コスト等から、概ね効率的に実施されていると思われる。完了事案で客観的に評価できる事例があればなお良かったが、若者を参画させることによる活性化や将来を見据えた事業でもあり、今後必要不可欠な事業であると思われ、市民の理解も得られやすいものと判断する。
- ・目標達成にはわずかに及ばなかったが、学生が気軽に市役所へ来て仕事ができることは、間違いなくその学生にとって瑞浪市はナンバーワンであるはずである。
- ・交付金の利用を目的とするのではなく、協定を締結した学校の事業実施数を評価対象とする方が適切であると感じる。若者の取組が地域の活性化に直結していることは明確であるため、これらの取組やその効果をよりわかりやすく発信することで、参加する事業者の増加にもつながることを期待する。
- ・高校生らがまちづくりに参画することは、とても良いことであると思う。
- ・SNSでミライ創ろまい課の活動を知ることができる。若い人たちが頑張っているのは、明るい未来を感じさせる。夕方の活動は、中学生や高校生を中心として、大学生は時間帯に縛られないよう単体で活動できれば良いのではないかな。

【事業⑤】お試し移住体験事業

【委員会総合評価】 B

ふるさとワーキングホリデー事業は、瑞浪市への関心を高め、地域とのつながりを築く有効な取組として評価する。応募も多いことから、移住・定住への発展や関係人口の拡大に寄与する事業として、継続的な実施が求められる。今後は、受入れ事業者の増加や滞在期間の延長も期待する。また、滞在後のフォローアップを行い、参加者とのつながりを継続し、市民の理解と協力を得ながら、地域活性化につながる取組となることを期待する。

【個別意見】

- ・特別交付税があるとのことで、今後も広く募集し、一人でも多くの人が目的達成のために継続していくことを期待する。さらに、将来の移住・定住の掘り起こしを考慮するのであれば、今度、土岐市に開校予定の日本語学校の生徒まで対象を広げることも

一考である。

- ・ふるさとワーキングホリデーに参加することはあくまできっかけであり、瑞浪市での滞在期間が終了した後のフォローアップが重要であると考え。今後も継続的に瑞浪市へ関わってもらえるような方策を模索してもらいたいと考える。また、滞在期間中に瑞浪市への関心を高めてもらうためには、就業先や宿泊先等の理解と協力も重要であるため、十分な連携と支援をお願いしたい。
- ・多くの若者が瑞浪市を訪れ、地域の仕事に従事しながら地域を知り愛着を持ってもらう仕組みづくりは、高く評価できる。今後は、受け入れの事業者数を増やししながら、受け入れ人数の拡大に期待する。また、ふるさとワーキングホリデーに参加した若者との交流により、地域の若者が刺激されることも期待する。
- ・目標値は達成しており、限られた財源の中で対象者を選定して実施されたものであり、概ね効率的に実施されていると思われる。地方ではどの自治体も人口減少に直面していることから、ニーズはあり、継続の必要性も伺える。当該事業から移住・定住者が出ればなお良いが、関係人口の拡大も期待でき、市民の理解も得やすいと判断する。
- ・かろうじて目標値を達成しているため、項目別評価の達成度をBとした。ぜひ継続していただきたい事業であるため、過去の参加者へのフォローアップはもちろんのこと、現在どのように瑞浪市と関わっているのかを明示されたい。
- ・受け入れ人数を大幅に上回る応募があり、瑞浪市への関心を喚起する効果が高いと評価できる。今後の課題としては、体験者がその後どのような形でつながりを持っているかを追跡し、その状況を市民に知らせることで、事業への共感をさらに広げることが重要であると考え。
- ・多くの方が瑞浪市でのふるさとワーキングホリデーに興味を持っているようで、嬉しく思う。
- ・ふるさとワーキングホリデーは積極的に進められたい。コスト面を考慮し、2週間となっているが、せめて1ヶ月間実施することで、市や事業者、参加者とのつながりはもちろん、技術も習得することが可能となる。参加者と事業者のフォローが大切である。

【事業⑥】小児インフルエンザ予防接種費用助成事業

【委員会総合評価】 B

コロナ禍以降、小児インフルエンザ予防接種の接種率は減少傾向にあるが、重症化予防の観点から継続が望まれる。任意接種であるため、有効性やリスクの周知が重要であり、広報手段の工夫や対象者枠の拡大も検討すべきである。また、経済的負担が接種控えの一因となっていることも考えられるため、助成制度の充実も必要である。周知方法の改善や接種効果の具体的な説明により、市民の理解と接種率向上を期待する。

【個別意見】

- ・コロナ禍以降、接種率は減少傾向にあるものの、特に小児対象には必要性を感じるため、継続を望む。
- ・小児インフルエンザ予防接種は任意接種ではあるが、市民が接種の必要性を判断するためには、予防接種の有効性やリスクなどの判断材料を示す必要があるのではないだろうか。制度として今後も継続していくのであれば、予防接種の有効性や必要性はしっかり示していく必要があると考えられる。
- ・小児インフルエンザ予防接種の助成は、様々な経済状況にある家庭において、子どもたちの健康のためにも重要な事業であると考ええる。一方、ワクチン接種が任意で全員の接種を目標として掲げることができないため、行政が担う役割と経済支援の観点から事業の目標設定や位置づけを改めて議論することも必要であると考ええる。
- ・ワクチン接種に対する多様化が進む中、打たないという選択肢を取る市民も増加していると考える。そのため、小児ワクチンについては、もう少し具体的に、接種すればどのような効果があるという説明が必要であると考ええる。
- ・目標値は下回ったものの、重症化予防の観点で必要性はあり、予約がしづらいとの声もなく、事業の進め方等は概ね無難な内容であったと思われる。事業内容から市民の理解も得やすいものと判断する。
- ・事業の性質上、現状で継続という形になると思われるが、対象者枠の拡大や小児インフルエンザ予防接種の安全性をPRすることが望ましいと考える。もし不都合があるとなれば、予防接種の必要性をPRする頻度や広告の工夫などを検討していただければと思う。
- ・事業としては必要不可欠であると思うが、周知は広報誌、ホームページのみで、例年との比較や接種率アップに向けた改善点が不明である。予約開始時期に合わせ、こども園、小中学校のお知らせや保健だよりなど、各家庭に届く具体的な周知方法を検討してみてもどうか。
- ・予算の課題はあると思われるが、例えば、2人の子どもに2回接種が必要となると約1万円の費用がかかり、金銭的負担のためにワクチン接種を控える家庭もそれなりに存在するのではないかと思う。ワクチン接種を進めたいのであれば、金銭的なハードルを低くすることが必要であると考ええる。
- ・ワクチンに関しては個人差もあり、任意接種ということでバックアップ体制はとても良いと考える。

【事業⑦】 農産物等直売所管理経費(指定管理)

【委員会総合評価】 B

きなあた瑞浪は立地に優れ、市内外から多くの人たちが訪れる賑わい創出の重要な拠

点である。来場者数、販売額ともに、前年度比で増加しており、無難に施設運営がなされているが、行政の適切な管理、指導も必要である。また、市内物産のPRやイベント開催による集客、他施設との差別化を図るブランディングも重要となる。新商品の開発にあたっては、民間委託の活用も検討され、地域農業振興と観光振興の拠点となることを期待する。

【個別意見】

- ・駐車場の変更、子どもの遊び場の新設などの発想や、夜間営業にてアルコールを提供するなどの意見はあるが、今後は一つひとつ改善され、より良い農産物等直売所にしていくことが大切であると思う。そのため、現状の取組を継続されたい。
- ・国道19号からも近く、立地条件にも優れており、市の賑わいの拠点となる施設であると思われる。農産物に限らず、瑞浪市内の物産を販売・PRできるような施設としての活用が必要であると考え。施設の管理・運営については、指定管理者に任せきりにならないように、行政として適切に管理・指導をお願いする。また、積極的なイベント実施により、人を呼び込む工夫をされたい。
- ・きなあた瑞浪は、地域内外からの認識も定着しつつある直売所であり、多くの人々が訪れる瑞浪市の重要な拠点である。そのため、今後さらに発展するためには、市民や消費者のニーズを適切に把握しながら、新しい取組に挑戦していただきたいと期待する。
- ・目標値は達成しており、来場者数・販売額も前年度比で拡大していることから、事業の進め方は無難なものであると考えられる。地域農業の振興及び一層の観光拠点化の観点から、継続の必要性もあると考え。瑞浪ボーノパークの一層のブランド化への取組を期待するが、市民の理解は得やすいものと判断する。
- ・令和5年度よりも実績が増え、目標値を大きく上回ったと言える。しかし、新商品開発については、インパクトのあるものを、民間に委託して開発することを考えてみてはどうか。
- ・来場者数に加えて販売額も増加しており、高く評価できると考えられる。今後は、他の施設との差別化や計画的な情報発信などによるブランディングをさらに進めることで、さらなる成長の可能性が大いにあると感じる。
- ・午後になると商品が少なくなってしまうと感じている。また、他地域の商品も販売されているが、どこでも手に入る野菜ではなく、他ではなかなか見かけない果物やお菓子など珍しいものを販売してほしいと考える。
- ・きなあた瑞浪では、毎週イベントができると良いと考える。また、ハム工房瑞浪で販売されるハムなどはブランド化されており、独自性があって良い。加えて、バーベキュー広場はより一層人が集まると良いため、駐車場や河原の活用方法を考える必要がある。

【事業⑧】観光コンテンツ造成事業

【委員会総合評価】 B

目標指標を達成し、観光消費額も増加している点を評価する。体験型コンテンツの造成や多様な媒体による情報発信が奏功し、認知度は低いものの徐々に注目を集めている。今後は、この効果を一過性で終わらせず、平常時の誘客や再訪促進を図るなど継続的施策が求められる。また、点から線へのPRの転換や、グルメ・名所を組み合わせたルート提案も重要である。動画やSNS活用による認知拡大、インバウンド対応の強化も期待する。

【個別意見】

- ・目標値に対する実績は103.8%であり評価できる。他地域との比較を行うことで、さらに見える化が進むと思われる。
- ・観光コンテンツを作ることが目的ではなく、紹介した施設等を訪れてもらえるようにすることが重要であると考え。今後は、今回造成した各コンテンツを有効活用する方策を検討してもらいたい。また、各コンテンツで点として紹介されているものを線としてPRしていくことも重要になると思われる。瑞浪市に來たことがない人に対して、グルメや名所を組み合わせで1日で瑞浪市を満喫できるルートの提案もしてもらいたい。さらに、瑞浪市観光が単発のものにならないように、再度訪れてもらえるような工夫も必要であると考え。
- ・多くの事業者を巻き込みながら体験型の観光コンテンツを展開し、様々な媒体を活用した情報発信の成果として、多くの人たちが訪れたことは高く評価できる。今回の事業成果を活かして、市観光協会との連携のもと、後継となる事業においてインバウンド対応も含めた体験型の観光プログラムの充実と、事業目的にもある観光消費額の増加につながることを期待する。
- ・概ね目標値は達成しており、費用対効果の問題はあるが、観光消費額も増加が見られており、一定のニーズはあるものと思われる。地域活性化には観光業強化は必要であり、市民の理解も得やすいものと判断する。
- ・目標値を達成はしているが、割引クーポン対象期間が大部分を占めており、平常時の誘客に課題がある。動画も完成度は高く評価できるが、認知度はまだ低い。他のSNSへの投稿も検討すべきである。
- ・令和5年度と比較すると利用人数はやや減少傾向にあるが、目標は達成しており、認知度の向上も確認できた。今後は、この効果が一過性にとどまらず、平常時においても「瑞浪に訪れてみたい」「再訪したい」と感じていただけるような継続的な施策の実施が期待する。
- ・9月28日、「相生座」で開かれた美濃歌舞伎の公演を観てきた。初めての体験でと

ても感激した。このような素晴らしい文化をより一層広められたい。様々な場所に出かけてもらうのではなく、気に入った場所に何回も足を運んでもらえると良い。

【事業⑨】東濃圏広域観光 PR 事業

【委員会総合評価】 B

6市1町の連携による効率的な観光PRは一定の成果を上げており、観光業強化は市民の理解も得やすい。リニア中央新幹線開通を好機と捉え、東濃地域全体での観光PRが重要とされる中、瑞浪市の独自性を埋もれさせずに発信する工夫が求められる。今後は、地域の特色を活かした周遊促進や、観光大使、他県との連携といった施策が必要である。観光資源に限られる中でも、ゴルフや自然を活かした魅力発信で、地位確立を目指すべきである。

【個別意見】

- ・リニア中央新幹線の開通は絶好のチャンスと捉え、東濃地域が一体となって今後も継続的にさまざまなイベントを通じPRしていくべき事業であると考ええる。
- ・広域での取組であるため、瑞浪市の独自性を打ち出すことが難しい面もあると考えられる。そのような中でも、広域の中で瑞浪市の魅力が埋もれてしまわないよう、瑞浪市をPRしていくことが求められる。
- ・東濃5市、可児市、御嵩町が連携して共同で観光の活性化を目指す実施体制の整備と取組は、将来の広域連携の観点からも重要であると考ええる。今後は、共通の特産品だけでなく、それぞれの地域の特徴や強みを活かしながら、県外から東美濃地域を訪れ、周遊してもらえる仕組みづくりに期待する。
- ・概ね目標値は達成しており、観光客の取り込みには周辺自治体との連携が必要と思われる中、6市1町で連携したPRを実施していて効率性も評価できる。
観光入込客数も増加傾向で一定のニーズはあるものと思われ、地域活性化には観光業強化は必要であり市民の理解も得やすいものと判断する。
- ・東美濃地域の中で瑞浪市が置かれている状況を考慮すれば、目標を達成できている点は高く評価できるのではないだろうか。まだ「東美濃」という呼称が広く浸透していない中で、瑞浪市としての独自性を打ち出すには、思い切った施策が必要であると考ええる。観光大使の有効活用や、福井県（杉本知事は中津川市出身）との化石を通じた協力関係の構築といった方策を積極的に進めるべきである。
- ・目標値は達成しているものの、来訪者が観光目的で訪れたのか、単なるカウントに過ぎないのかの区別が不明確であり、「東美濃」としての広域観光事業の効果が十分に見えにくいと感じる。
- ・他市に比べて観光資源は少ないが、ゴルフや自然をもっとアピールし、不動の地位を目指すことも可能ではないだろうか。

- ・ゴルフで訪れた人も観光客としてカウントしているが、観光客の定義を明確にするべきである。

【事業⑩】 広域バス路線運行維持補助事業

【委員会総合評価】 B

令和5年度から令和6年度にかけて利用者数は増加したが、目標値には未達であった。陶地区の交通手段確保は重要課題であり、公共交通は学生や高齢者だけでなく多くの市民にとって生活基盤であるが、赤字拡大による財政負担を考慮し、代替手段の検討も必要である。一定のニーズはあるが、民間路線の維持管理は難化していることから、今後の支援の在り方を早急に検討する必要がある。地域の理解を得るため、客観的な調査と丁寧な説明が重要である。

【個別意見】

- ・実績は目標値には達していないが、令和5年から令和6年にかけては増加しており、陶地区のデマンド交通との並走により、利用促進を継続的に図っていく。また、現在、明智鉄道では蒸気機関車の復活に向けた動きがある。これが実現すれば、瑞浪駅から明智線に乗り、明智駅まで行き、そこから蒸気機関車で恵那駅へ向かうといった周遊観光が可能になると考えられる。明智線は子どもたちの通学路線でもあるため、その存続に期待する。
- ・陶地区に限らず、郊外地域の交通手段の確保は重要な課題であると考ええる。しかしながら、赤字額が増大すれば市の財政に与える影響も大きくなると思われるため、補填額に見合う代替手段の検討も必要ではないだろうか。
- ・公共交通は、地域の高齢者の移動手段としてだけでなく、通勤、通学、通院など、多くの人々にとっても重要であり、地域の安心・安全を支える基盤である。継続して運行するためには、地域のニーズや利用状況に基づいた客観的な調査データをもとに、市民や当該地域の方々の理解を得られるような取組が求められると考える。
- ・普段使用しないため、分からないことも多いが、使用する人がいる以上、サービスがなくなれば困る人がいることは確かである。
- ・事業目的が「陶地区の交通手段の確保・維持」と設定されている中で、目標指標の設定に違和感がある。目標値は未達となっているが、一定数の利用客があることから、ニーズがあることに疑いなく、運営は東濃鉄道が行っており、市の実際のコストは低いものと思われ、効率性がうかがえる。交通手段の確保という観点から、市民の理解も得やすいと判断する。
- ・実績としては目標を達成しなかったものの、コロナ禍以降減少した利用者数が回復傾向を示していることから、一定の効果・成果があったとみなして良いと考える。
- ・利用者の減少により、運行の維持・管理が年々難しくなっている状況がうかがえる。

今後の運行体制やサービスの在り方について、早急に代替手段や新たな運行形態の検討を進めることが望まれる。

- ・陶地区の方々の意見をより知らなければ、評価の判断に迷いが生じた。

【事業⑩】防犯活動推進経費

【委員会総合評価】 B

青色回転灯防犯パトロール活動は、地域の安全確保に重要だが、1日1回の目標値は人的負担が大きく、持続性に課題がある。高齢化や人手不足を踏まえ、人が多く行き来する箇所など重点的に絞った効率的な巡回が求められる。行政は活動を団体任せにせず、効果的な手法を提示するべきであり、警察との連携や講習会の実施、若年層の参加促進、報酬の検討なども必要である。また活動の効果測定を行い、地域ニーズに即した柔軟な見直しを望む。

【個別意見】

- ・目標値が1日1回のペースでは無理があるのではないかと。人が多く行き来する箇所など、特定の地区を絞った巡回方法に変更し、効率性を考慮した活動にするのも一つの方法ではないかと思う。
- ・市民の防犯意識の向上や、犯罪のないまちを作ることは重要であると考え。パトロール従事者の高齢化が進んでおり、限られた人員でパトロールの実施回数を目標にすることは、実施団体への負担となり、活動自体が立ち行かなくなる可能性が懸念される。活動団体の自主性に任せるだけでなく、限られた人員で有効な手法を行政が提示する必要があると考えられる。市民の防犯意識を醸成させるためには、活動団体や警察などとの協力活動も必要ではないだろうか。市民の防犯意識が向上すれば、防犯活動に参加する市民も増えるのではないかと期待する。
- ・青色回転灯防犯パトロール活動は、子どもたちをはじめとした地域の安心と安全を守るための重要な取組である。パトロールにあたっては、実施回数だけでなく、必要な時間帯や地域のニーズを踏まえた効果的かつ効率的な取り組みが期待する。また、警察との連携のもと、青色回転灯防犯パトロールの回数と地域の犯罪件数との相関を検証することも、若い世代を巻き込みながら活動を継続するために重要であると考え。
- ・事業目的が「市民、特に子どもや高齢者に対する防犯対策の強化」であり、設定された目標指標に違和感がある。パトロール従事者の確保が難しくなる中で、効率性を考慮し、目標指標の見直しが必要であると考えられる。また、諸犯罪の状況や人口減少、近隣関係の希薄化などを考慮すれば、高い市民ニーズが存在すると推察され、評価も高いものと判断する。
- ・関係者の日頃の努力には頭が下がるが、やはり完全ボランティアという形には限界がある。そもそも、一般財源からの686,000円という予算は少ないと感じる。こ

の防犯活動を維持していくためには、自治会の比較的若い世代が関心を示してくれるようなイベントの開催や、従事者への表彰・報労などの施策を検討する必要があると考える。

- ・パトロールの実施回数は年々増加しており、活動自体に改善が見られると感じる。しかし、ボランティアへの依頼による市民負担が懸念されるほか、今後も従事者の増加が見込めない状況を踏まえると、パトロール活動の実施状況と防犯効果を測定し、その結果をもとに活動の方向性を見直すことも検討すべきだと考える。
- ・防犯パトロール活動は非常に重要な活動である。講習会は、子どもから高齢者まで受講されたい。

令和7年度瑞浪市総合計画推進委員会開催経過

- | | | |
|-----|------------|---|
| 第1回 | 令和7年8月21日 | <ul style="list-style-type: none">・委嘱式・会長、副会長選任・委員会の運営、進行管理、スケジュールの確認・2次評価の方法の説明・令和6年度に実施した行政改革の取組の紹介 |
| 第2回 | 令和7年9月18日 | <ul style="list-style-type: none">・事業担当課より事業概要及び1次評価の説明及び意見交換・令和6年度に実施した行政改革の取組の意見交換 |
| 第3回 | 令和7年9月29日 | <ul style="list-style-type: none">・事業担当課より事業概要及び1次評価の説明及び意見交換 |
| 第4回 | 令和7年10月22日 | <ul style="list-style-type: none">・各事業の委員会総合評価の審議・意見書構成案の審議 |
| 第5回 | 令和7年11月13日 | <ul style="list-style-type: none">・意見書案の審議 |

令和7年度瑞浪市総合計画推進委員会

会 長	大宮 康一	(学識経験者 岐阜大学)
副会長	佐伯さほり	(おりベネットワーク (株))
委 員	景山 英明	(瑞浪商工会議所)
委 員	河田 淳司	(岐阜県東濃県事務所)
委 員	青木 泰尚	(麗澤瑞浪高等学校)
委 員	谷 佳樹	((株) 日本政策金融公庫)
委 員	堀尾 憲慈	(連合岐阜東濃地域協議会)
委 員	安藤 友美	(学識経験者 パーク法律事務所)
委 員	小木曾みどり	(公募)